

地域クラブ活動体制 整備事業を活用した クラブ運営について

泉大津市教育委員会生涯学習課 中山 裕司

泉大津市教育委員会生涯学習課 川真田 高代

泉大津市吹奏楽団 佐藤 維



レジュメ

1. 泉大津市について
2. 泉大津市吹奏楽団
3. 泉大津市立誠風・東陽・小津中学校 吹奏楽部
4. 吹奏楽部における指導について
5. 地域展開に向けての成果・課題・今後の取組



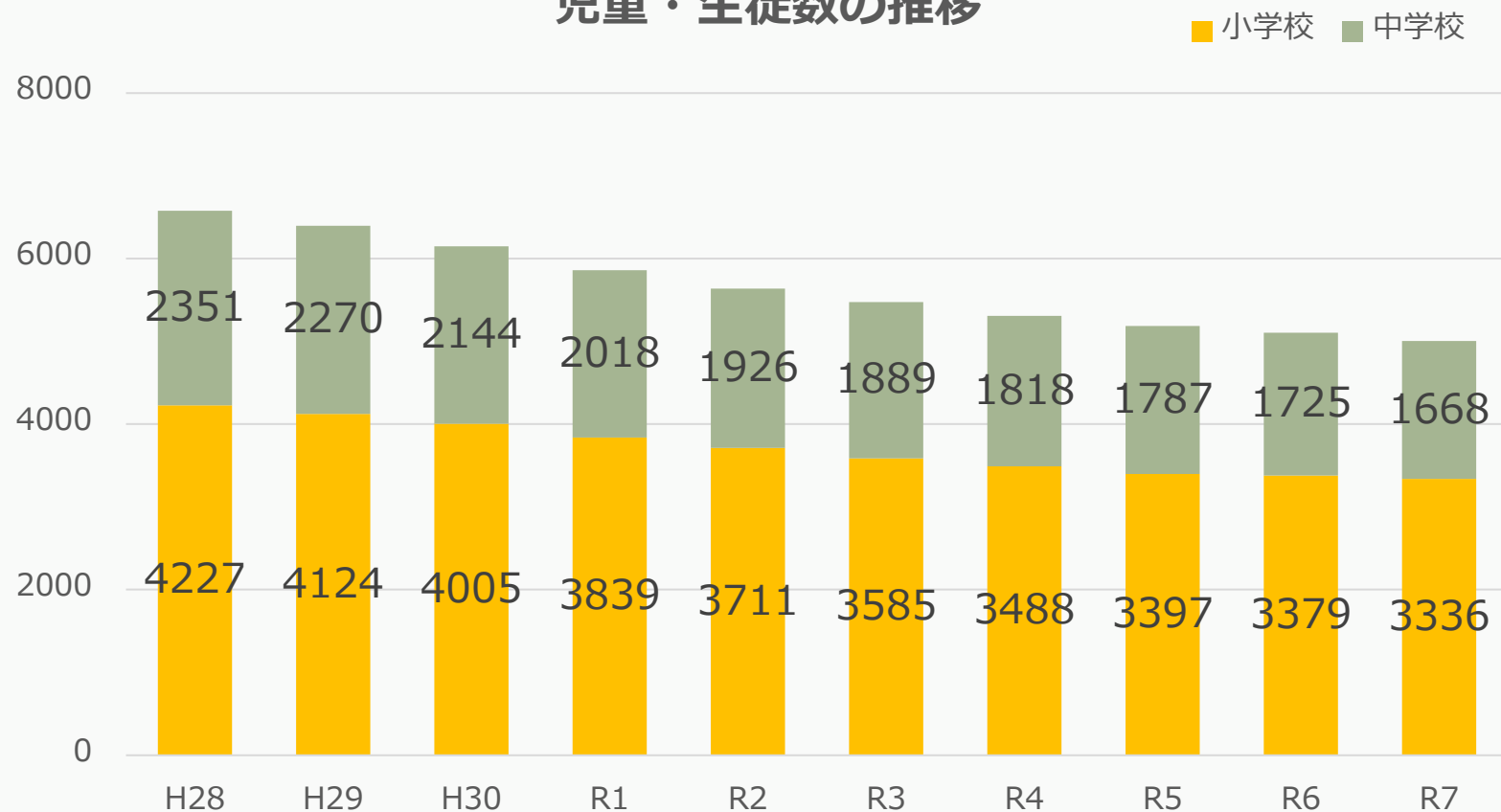


テクスピア大阪
大ホール

1. 泉大津市について

泉大津市の現状

児童・生徒数の推移



市域面積

14.33km²

人口

72,559人

市内中学校数
(公立のみ)

3校

市内中学校
生徒数

1,668人

文化部活動数

10部

はじめに——運動部活動の状況について

令和 3 年度 合同ゆる部活動を展開
(部活動の現状把握、生徒のニーズ調査)

令和 5 年度 地域ダンスクラブ創設
(総合型地域スポーツクラブへ委託)

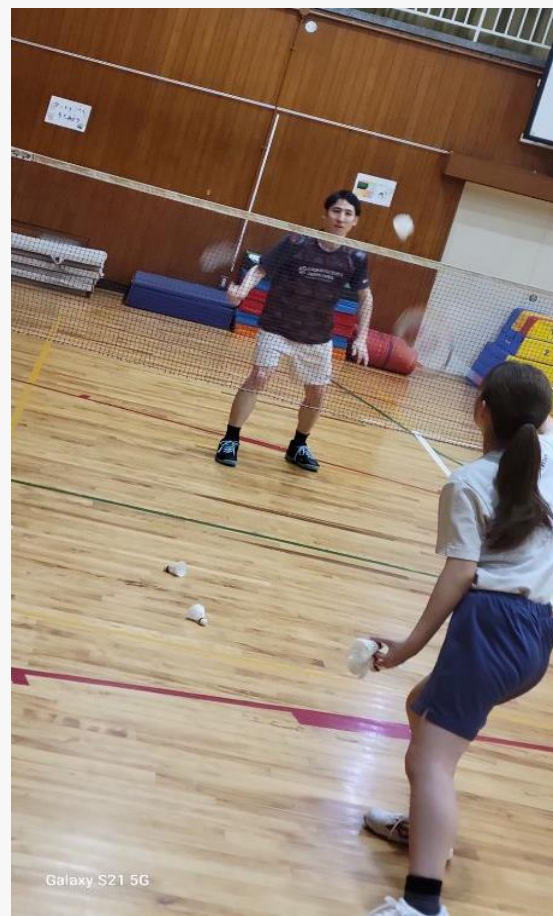
令和 6 年度 地域バトミントンクラブ創設
(総合型地域スポーツクラブへ委託)

令和6年度の活動状況（運動部活動）



●地域DANCEクラブ

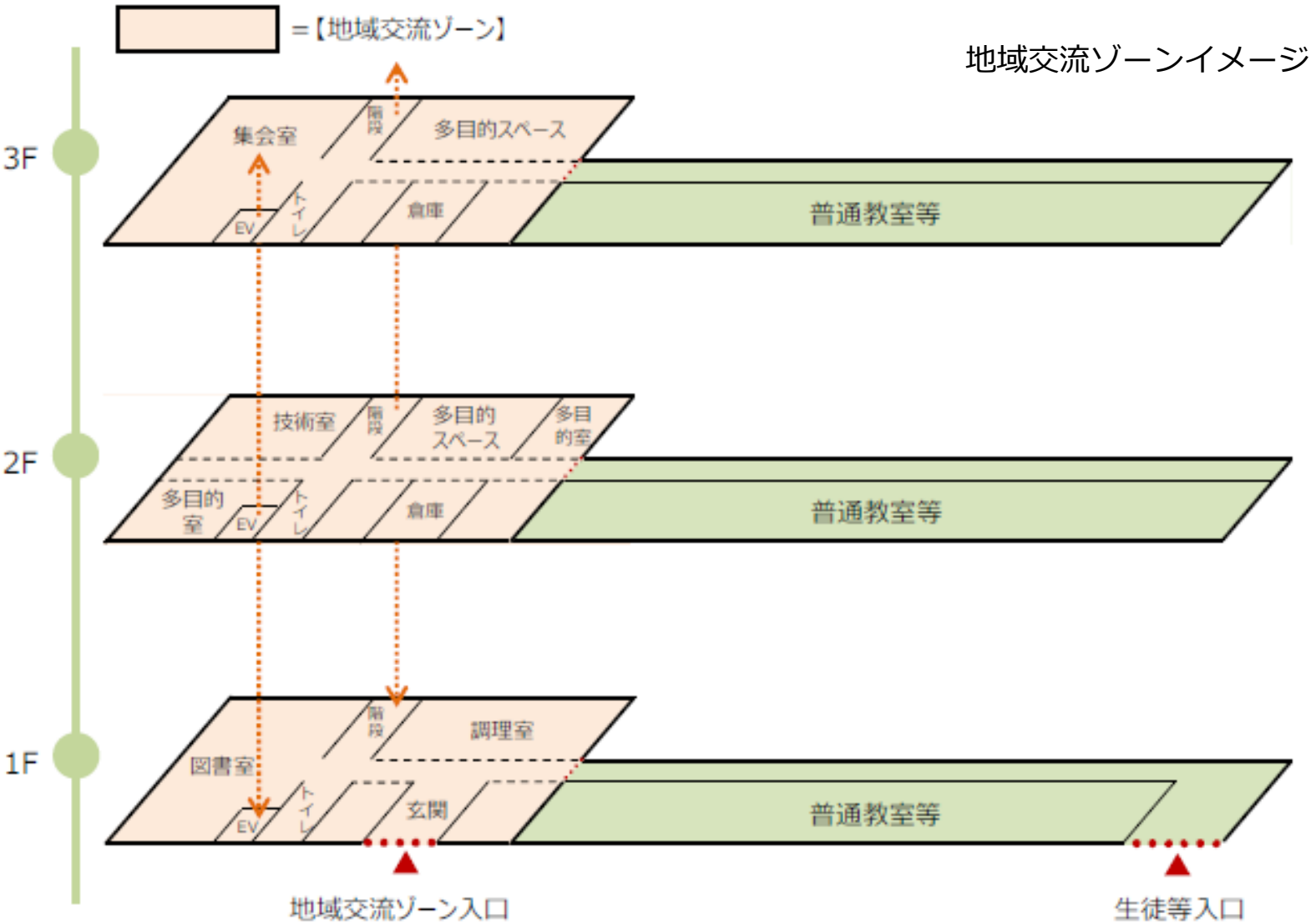
週1回土曜日 15時～17時
生徒数 34名
指導者 4名



●地域バドミントンCLUB

週1回土曜日 9時～12時
生徒数 3名
指導者 1名

本市の特徴的な取組——地域交流ゾーン



コミュニティ・スクール等の仕組みをはじめとする、学校と地域の連携・協働による「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を展開し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくりを具現化できる施設となるため、地域住民が、学校の特別教室等を、学校教育活動を優先にしながら、日常的に利用できる活動スペースであり、地域住民と学校（児童・生徒）が一緒に利用する、交流空間となるよう整備されたもの

小津中学校地域交流ゾーン案内図

教室の配置

1階



2階



3階



4階

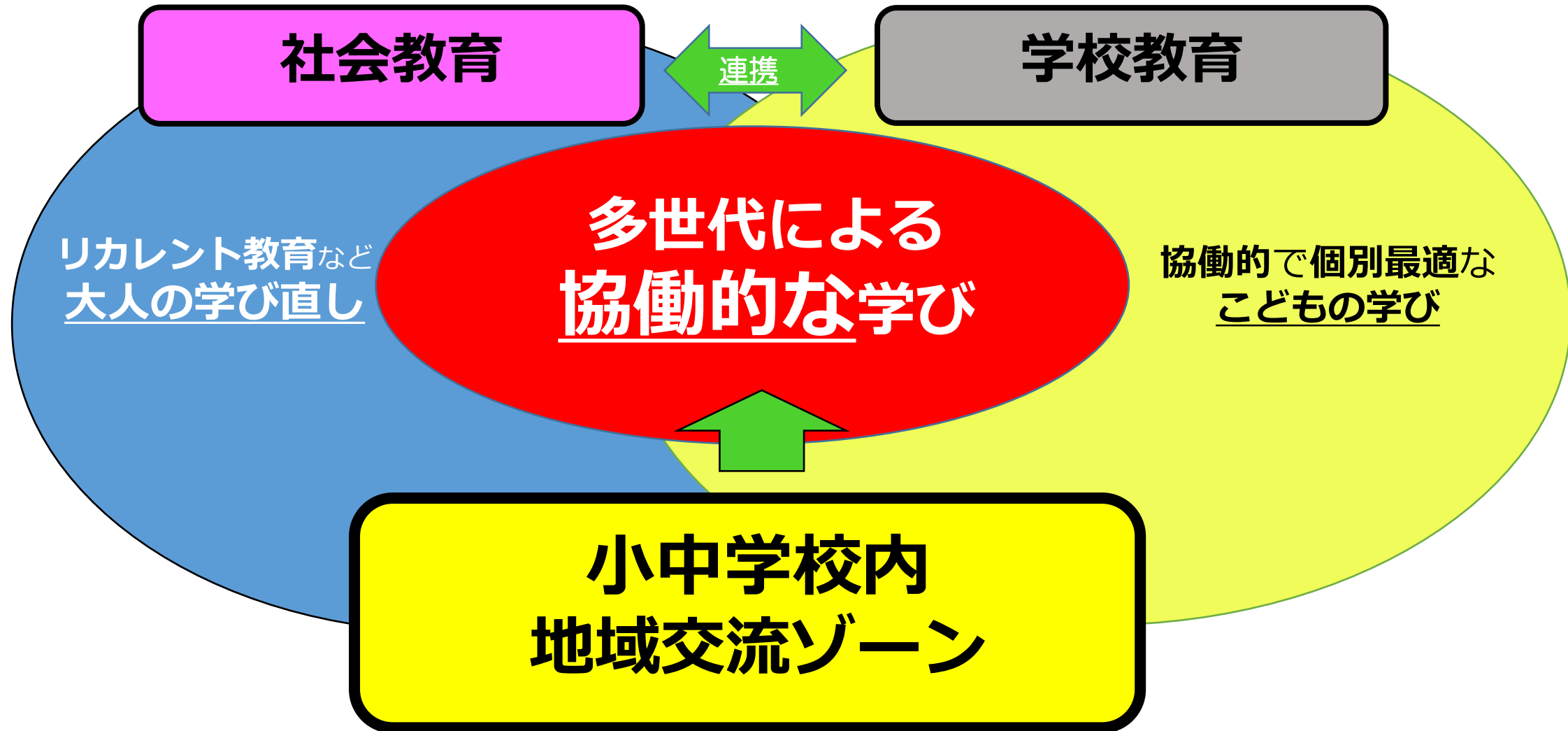


【留意事項】

- ・左の配置図でオレンジ色がついている諸室は、モデル事業向けに開放予定です。
- ・★の諸室は授業等の関係から使用できませんが、令和7年度以降に活動場所として利用できる見込みがあります。

見学できる諸室の名前	階数	広さ	諸室の説明
入口	1階	—	・活動の際はここから入校します ・校内は土足厳禁です
調理室兼被服室(受付)	1階	135㎡	・オープンレンジやガスコンロなどの調理設備や調理器具があります ・食器用布巾を洗うための洗濯機と乾燥機があります ・ミシンなどの裁縫用具があります   
※メディアセンター	1階	—	・沢山の本の他に、くつろぐことができるスペースがあります ・外には開放感のあるテラスがあります   
理科教室	2階	101㎡	・電子顕微鏡や、電流計をはじめとした実験用具があります
スタジオ	3階	34㎡	・防音設備が整っていて、バンド練習ができる楽器や設備があります
集会室	3階	239㎡	・広々としていて、運動用のマットの設備があります ・グランドピアノの他、壁面の鏡やスクリーン、音響の設備があります   
工芸室・美術室	4階	101㎡	・流しやスクリーン、机と椅子があり、絵などを描くほか、スクール形式での活動も可能です。 
多目的室	4階	68㎡	・学校で使用していないときの使用が可能です ・今回見学ができない多目的室には、間仕切りにより大きさを変えられるため柔軟な使用が可能なものもあります

地域交流ゾーンのめざす姿



地域部活動（文化部）の概要

●クラブ名：泉大津市立誠風・東陽・小津中学校吹奏楽部

実施回数	週1回（土曜日）
実施時間帯	9：00～12：00
活動場所	泉大津市立誠風中学校
参加者	令和5年度：40名（R6.2時点） 令和6年度：86名（R7.2時点） 令和7年度：92名（R7.9時点）
会費	月会費2,000円
指導者数	26名（生徒への技術指導を行う）

ただし、事業実施（令和5年10月）時点で2校、令和6年9月から3校全てで地域展開を実施した。

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年度

- ・ 受け皿団の選定や指導対象となる学校の選定
- ・ 事業実施に向けた協議の開始

●経過

・本事業を活用した部活動指導について、3者（市、誠風・小津中学校、市吹奏楽団）間での協議を開始。

●実施にあたって生じた課題

・指導者の選定や指導方法の検証・実施校の選定（市内3校のうち、どの中学校を指導するか）

●実施内容、工夫した点 等

・ステークホルダー間での密なコミュニケーションを意識した。
・市内3中学校吹奏楽部の将来的な合同部活動(団体による3校の指導)を検討。

令和5年度

- ・ 団体や学校現場との諸調整
- ・ **地域団体の指導による吹奏楽部部活動の開始**

●経過

・事業実施に向け、事業内容や実勢体制、契約内容、受益者負担の考え方等について3者（市、誠風・小津中学校、市吹奏楽団）間で協議のうえ、**令和5年10月から事業実施**（誠風・小津の2校）。

●実施にあたって生じた課題

・指導者の選定にあたり、一定の質の確保が求められることから、指導者の質の向上に向けた取組が必要。

●実施内容、工夫した点 等

・指導の質もさることながら、生徒との交流により自らも学ぶ意欲のある者から指導者を選定。

令和6年度

- ・ 年間を通じた地域団体の指導による吹奏楽部部活動の開始
- ・ **3 中学合同部活動**の開始

●経過

・より効果的かつ効率的に、教員の働き方改革を推進し、また、生徒がより質の高い文化芸術へ触れる機会を提供するため、**令和6年9月から3 中学校合同による部活動を開始**

●実施にあたって生じた課題

・部活動に入部する生徒数が減少傾向のなか、持続的な部活動実施を目指し、生徒数の増加につながるような情報発信等による認知度向上が必要。

●実施内容、工夫した点 等

・まちなかアートフェス2024など、市のイベント等への出演による生徒の豊かな文化芸術経験の創出および情報発信。

【泉大津市】



- ・ 学校、吹奏楽団との連絡調整
(活動場所・使用物品・活動日程等)
- ・ 課題や検討事項の整理
- ・ 多様な文化芸術の体験や
発表の機会の創出

【誠風・東陽・小津中学校】



活動場所の提供



使用物品の確認



生徒、保護者への連絡

【泉大津市吹奏楽団】



(事務局)
市との連絡調整
(指導者)
指導者の派遣

実証事業で把握した課題や成果を市内で共有しながら、市内全3中学校の吹奏楽部の地域展開を推進する。

● 行政組織内での役割分担

教育委員会

生涯学習課

文化芸術団体との連絡調整、文化芸術体験機会の創出、環境整備

指導課

部活動改革の主幹、学校との連絡調整

首長部局

財政課

予算措置



2. 泉大津市吹奏楽団

泉大津市吹奏楽団

1966年4月1日

「泉大津市立誠風中学校OB吹奏楽団」として発足
結成当初は音楽好きな仲間10数名が集まり活動
演奏活動に加え、地元の様々な活動に参加。毎年市
内中・高等学校を中心に演奏会を開催し、合同演奏
会も実施。

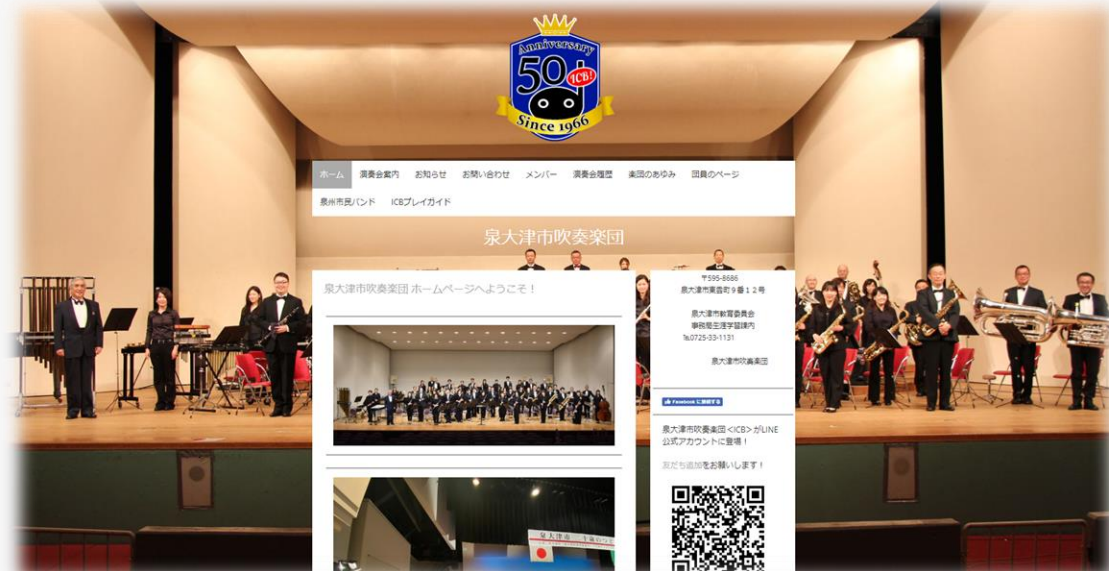
現在50名活動している。



○ 泉大津市吹奏楽団の地域貢献として

定期演奏会や地域イベント等の演奏会

泉大津市吹奏楽団 HP



[泉大津市吹奏楽団ホームページ - izumiotsu-city-band ページ ! \(jimdofree.com\)](http://izumiotsu-city-band.jimdofree.com)より

文化部活動の地域展開等に向けた実証事業

令和5年10月から

泉大津市吹奏楽団と**泉大津市**が委託契約締結のうえ、
泉大津市立誠風中学校を活動場所とし実証事業を実施。
原則、毎週土曜日午前中の部活動時、吹奏楽団員3名
程度により、生徒への技術指導を行う。



第41回 泉大津市民音楽祭～吹奏楽の部～



3. 泉大津市立 誠風・東陽・小津 中学校 吹奏楽部

R6.9より合同バンドとして活動

3. 泉大津市立誠風・東陽・小津中学校 吹奏楽部



誠風・東陽中学校については創部以来50年を超える歴史があり、多い時期では部員数100名を超える大所帯クラブ。小津中学校も大規模校ではないものの、吹奏楽部を有し、市内3中学校がそれぞれ依頼演奏や吹奏楽コンクールなどに参加。

コロナ禍で活動が制限され部員数も激減。

コロナ後も部員数の激減が止まらず、活動が大きく制限される時期が続いた。

3. 泉大津市立誠風・東陽・小津中学校 吹奏楽部



学校の建て替えによる活動場所の確保が困難になり、部員数の減少も重なり、令和5年10月より同市小津中学校吹奏楽部と合同練習を開始。また、令和6年9月より同市東陽中学校も合同参加。

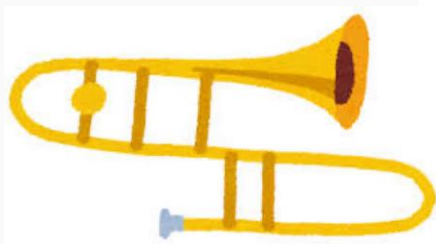
誠風中学校吹奏楽部	59名	
東陽中学校吹奏楽部	24名	
小津中学校吹奏楽部	9名	計92名

令和7年9月時点



4. 吹奏楽部における 指導について

吹奏楽部における指導



楽器の種類

<木管楽器>

- ・フルート
- ・クラリネット
- ・サックス

<金管楽器>

- ・トランペット
- ・トロンボーン
- ・ホルン
- ・ユーフォニウム
- ・チューバ

<打楽器>

- ・ドラム
- ・ティンパニ
- ・スネアドラム
- ・バスドラム
- ・シンバル
- ・鍵盤 etc...



合奏
指導

○ 各楽器の技術指導

トランペットパート



フルートパート



クラリネットパート



○ 各楽器の技術指導

低音パート



サクソスパート



合奏指導



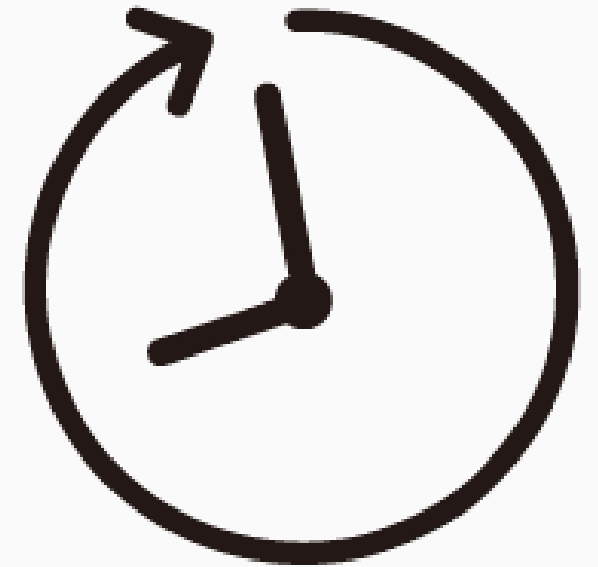


5. 地域展開に向けて の成果・課題と 今後の取組

成果①

○吹奏楽部顧問の働き方改革

令和5年度に2中学校（誠風・小津）の地域展開を、令和6年度に3中学校すべての地域展開を実施することにより、各校の吹奏楽部顧問が実施していた部活動指導のための休日時間の減少につながった。



成果②

○演奏機会の創出

泉大津市吹奏楽団と中学校部員は、本市市域全体で行うアートイベントである「まちなかアートフェス」へ出演し、コラボレーションによる楽曲を披露するなど、部活動指導を通じて得られたつながりや成果を、市民や地域に還元する機会となった。

大人と一緒にステージでの合奏を経験することで、生徒の演奏技術や芸術性の向上を図るとともに、協調性がはぐくまれ、意欲向上にもつながった。



成果③

○専門的な技術指導による演奏技術等の向上

木管、金管、打楽器や弦楽器など、多様なパートで構成される吹奏楽において、顧問教員では実現が難しいパート別の専門的な指導を行うことで、生徒の演奏技術や芸術性の向上等、部活動の内容の充実につながった。



成果③

○専門的な技術指導による演奏技術等の向上

演奏会における来場者数は去年度に比べ増加した。

また、第64回大阪府吹奏楽コンクール（2025年度）南地区大会では泉大津市として12年ぶりに金賞代表に選出。

続いて開催された大阪府大会でも銀賞に輝くなど、優秀な成績を収めている。



課題①

○財源の確保

現状、地域文化クラブ活動を行う上での収入は、受益者負担として吹奏楽部の部費と、「文化部活動改革（地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業）」実施に伴う本市からの委託料（国費100%）としており、楽団員への指導者謝礼や楽器の運搬費に充てているが、持続的・継続的に地域文化クラブ活動を行っていくため、今後いかに安定した収入（活動財源）を確保できるかが課題。

今後の取組

今後、受益者負担額の見直しを行うなど、財源確保について検討を行う。

課題②

○活動場所の確保

パート別の練習は実施しているが、複数の活動場所確保が難しい状況があり、全体練習の時間が中心となっている状態がある。

今後の取組

学校施設のセキュリティの課題を整理し、地域交流ゾーン（市内小中学校の教室の一部を開放）利用促進が図れるよう検討していく。

ありがとうございました

